

生長の家神の国寮だより

## 光の泉

the spring of light



第 15 号

29年度 紅葉号

公益財団法人 生長の家社会事業団  
 児童養護施設 生長の家神の国寮  
 〒186-0003  
 東京都国立市富士見台2-39-1  
 tel 042-572-8770  
 fax 042-573-9205  
<http://www.kamino92.or.jp/>

この夏の感動！  
 子どもも職員も笑顔はじける  
 生長の家神の国寮！

施設長 國弘昭義

### 「逆転の神の国寮」

この夏、バレーボール大会と野球大会で、見事アベック優勝に輝きました。「優勝」の二文字以上に嬉しかったのは「逆転の神の国寮」と称賛されたことでした。

バレーボールは女子の中学生・小学生チーム。1回戦から手に汗握る接戦が続き、どの試合も「逆転」で勝利。1セット取られても、リードされても、「大丈夫！ 笑顔！ 笑顔！」とコートには明るい声が響き、下を向く子はいない。これまでだったら、ミスした子を叱責したりにらみつけていた上級生が、「ドンマイ！」とやさしくフォローしている。サトーが入らなかつた子が見事にサーブミスエースを決める。ベンチもコートと一つ

になつて声援を送り続けた！優勝のフオイツスル！ キヤプテンの目から歓喜の涙が溢れていた。

野球は男子の中学生・小学生チーム。江戸っ子杯で準優勝した勢いそのままに決勝に進むも試合は白熱の投手戦に。一点を争う試合は、ついに大会初のタイブレークに突入した。後攻のわがチームは、1アウト・ランナー2・3塁から始まる緊張する局面で、監督の見事な采配とエースの踏ん張りで無得点に抑える。迎えた攻撃、全員がひとつになつて応援する中、相手チームのエースが投じた好球を痛打、見事な走塁でサヨナラのホームを駆け抜けた。熱いものがこみ上げてきた！ 歓喜に抱き合う職員と子どもたちの姿が涙でにじんでいた。

こうした子ども達の精神的生長は、言うまでもなく監督・コーチを務めてくれた職員の日頃からのグループワークの積み重ねと全職員によるサポートの成果に他なりません。とりわけ今年は職員体制の厳しいなか、超多忙の勤務をおして子どもたちのために情熱を傾け奮闘してくださったことを思うと、感謝の涙を禁じ得ません。本当に本当にありがとうございます。

### バスケット東京代表で頑張ったK君

7月、高校3年のK君が出場したバスケットの「FID愛知交歓大会」の応援に愛知県豊田市まで行ってきました。K君の所属チームは、パラリンピック日本代表にもつながる「東京B代表」。高校生は2人だけで後は社会人の選抜チームです。2日間の大会でポイントガードのK君の活躍もあり、チームは見事に準優勝しました。K君は小学生入所時は落ち着きのない課題の多い子どもでした。そのK君が、今では高校でバスケット部の主将を務め、ホームでは同じ課題を抱える小学生の気持ちを誰よりも理解してお世話してくれるまでに生長しました。それは、「すべては子ども最高の幸せのために！」と、いつもそばに寄り添い愛情を注いでくれていた職員の愛育の賜であると信じます。準優勝の一翼を担ったK君の勇姿に、一緒に応援に行った担当の我那覇職員と喜びを爆発させた感動の一日でした。

### 子どもに宿る「神性・仏性」を信じ

#### 「自尊感情」を醸成しよう！

創設者谷口雅春先生は、教育の要諦は「自尊感情を醸成すること」であり、子どもに宿る「神性・仏性」を信じ引き出すことであるとして、次のように説かれています。

誰でも人間は「神の子」であるから、神の最高の自己實現として、何らかの方面においてその人でなければならぬ秀れたる才能を神から與えられているものである。山下清畫伯の如く、凡ゆる

方面において一見低能児と見えた者であっても、神は讀うべきかな、内在する神與の天分を發揮し引き出すようにするならば、何人も比肩することの出来ないような畫才を發揮しているのである。彼は式場隆三郎医博に見出され、鞭撻され、引き廻され、神授の天分を發揮しうるようになったのである。

或る少年は学校に学んで、あらゆる学科が不得手であったけれども、或る日、教師がこの少年の行動を注目していると、非常に上手に鉛筆を削っているのがあることに気づいたのである。教師は彼の天分を伸ばすように誘導した。それによつてこの少年は成長すると共に木彫に秀れたる天分を發揮し、後に、世間に相当知られている彫刻家になったということである。

多くの人は、自分の現在の成績を見て、大体「自分の天賦の才能はこれ位のもの」と考え、自分で勝手にあきらめてしまつて、折角、神が自己の内に産みつけておいてくれた天分を伸ばさないうで一生を終つてしまふのであります。これは誠に残念な事だといわなければならぬのである。（『人生を前進する』）

この夏の感動を胸に、「すべては子どものために！」「子どもも職員も笑顔はじける神の国寮！」を合言葉に、日々「和顔」Ⅱ「笑顔」と「愛語」Ⅱ「良き言葉」と「讃嘆」Ⅱ「褒め合い、認め合い、支え合う」を実践してきたと改めて決意しています。